

る。他の諸研究結果をみても、周産期の産後早期の愛着形成過程に生じる障害には、児の拒絶、怒りから、実際に傷つけたいという虐待のリスクに至る次元があることについては共通している¹⁹⁾。このような愛着形成の障害を具体的に項目に沿って評価することは、乳幼児期における虐待のリスクの評価にもつながると思われる。

ただし、虐待発生の予備軍ではなく子どもの保護を要した程度に深刻な実際の虐待事例の養育者に関する斎藤の研究においては、実母のうつ病の罹患率の高さも指摘されている²⁹⁾。先のボンディング障害の臨床的意義を提唱したKumarらも、重症の愛着形成障害ではその大部分に重度の産後うつ病の合併があることを指摘している。今回の結果でも、抑うつ症状の高い母親では愛着形成の障害の頻度がより高く、特に怒りや拒絶など虐待に直結するリスクを示す項目で関連が強かった。これらの結果は、いずれにしても、ことに虐待の重症例においては、重症のうつ病と虐待に至る母子相互作用の障害との関連は看過できないことを示している。

3. 育児困難に関連する要因リストの内容と育児支援への活用

育児困難に関連する要因リストの項目作成にあたり、本研究では産後うつ病発症の心理社会的危険因子として報告されている要因を含めた。産後うつ病の発症危険因子についての研究成果は、すでに20年にわたって集積されてきているが、高い確度をもってうつ病の発症を予測できるモデルはいまだ確立されていない。近年はホルモンなどの生物学的要因よりも、年齢・雇用・結婚状況などの社会経済状況や早期体験、社会的サポート・親密な対人関係などの心理社会的環境要因、抑うつ・不安症状や性格傾向などの母親自身の心理的特徴などの要因に基づく発症モデルが重視されてきている²⁾。今回用いた育児困難に関連する要因リストもこのような心理社会的要因を中心としている。今回の調査は訪問時の横断的調査であるが、母親の精神科既往歴、情緒的サポートの欠如、社

会経済的不利などがEPDS高得点と関連があった。これらの要因はうつ病の発症予測にとどまらず、母子支援内容の定式化という実践的観点からも把握しておくべき重要な項目であると思われる。

4. 虐待発生予防の観点からみた産後うつ病の母親への支援の意義

産後うつ病の発症関連要因とそれにもとづく支援に際して評価している心理社会的要因は、虐待リスクアセスメント指標¹³⁾や、乳幼児虐待リスクアセスメント指標^{25, 32)}の中の親や環境要因におけるリスクの評価項目と共通している。すなわちリスク指標に含まれている、親の精神状態や子への感情、社会的サポート、夫婦問題、経済問題などは育児困難関連要因の質問票項目にも含まれている。またEPDSやボンディング質問票の結果は虐待へとつながりやすい親の精神的状態や子どもへの感情を、より具体的に把握する手立てとして利用し得ると考えられる。今回の調査において、「赤ちゃんを叩きたくなることがある」という質問項目に肯定の回答をしたことを虐待の直接のリスク(可能性)の指標と考えると、それと有意な関連をみた要因は、夫や実母のサポートの欠如と、住環境や経済的な不満であった。これらは先の虐待リスクアセスメントの項目にも含まれるものである。産後うつ病の母親の支援の対象となった母子と家族の心理社会的プロフィールは、虐待リスクが高い家族と重なる部分も多い。そこでこのような心理社会的ストレスの軽減を目指した介入は、産後うつ病への早期介入であると同時に虐待発生の予防的介入ともなり得ることが考えられる。

今後の展望と課題

児童虐待やネグレクトのリスクを持つ子どもと家族は、地域での精神保健サービスをもっとも必要としている対象であるがそれと同時に、これらの家族はサービスへのアクセスが困難なケースで

あることが多いことが課題となる。周産期は、地域における精神保健のスクリーニングのための経路が医療・母子保健・福祉など複数の領域で確立している時期である。このようなタイミングを活かして、出産後の母親を対象として母子訪問サービスや乳児健診を精神面支援の機会とし得る。このようにしてより幅広い対象へのアウトリーチを考案することができる。その際今回用いた質問票の簡略さには、母子訪問の場面で用いやすい実用的な利点があり、理にかなっていると考えられる。

その一方で、今回提示した母子訪問サービスが虐待の発生を予防するという観点から見て、社会的妥当性があるかについての検討も必要である²⁶⁾。①EPDS高得点者を介入の対象者として選ぶことが虐待発生予防の観点からも適切なかを検討する必要がある。②その対象者に対して、EPDS得点や赤ちゃんへの気持ち質問票の得点などを支援プログラムによる改善の指標として現在用いているが、これらの指標が虐待発生のリスクの軽減も測定し得ているのか検証していく必要がある。③今回用いた質問紙による評価が虐待の多次元にわたるリスク全般を把握し得ていないとすれば、虐待のリスクアセスメントに特異的な評価方法と指標も導入する必要がある。④その上で虐待のリスクについての操作的定義を行う。そのリスクの減少という観点からの介入の効果についての検討が今後の課題となる。

今回用いた3つの質問紙は、母親の精神面支援を実施することを目的に作成された指標のセットとなっている。このため児の側の心理・行動面の状態などの要因は支援プログラムの中の指標には含めていない。また親の側の体罰の使用の認識や養育についての信条の歪みなどについては、乳児に対しては適当でないために含めていない。同様に母子訪問の段階では親の被虐待歴の詳細もまた、聴取項目として実践的には使用困難と判断している。親の被虐待歴、なかでも性虐待の被害は産後うつ病と養育上の困難の発生の両方との関連が報告されている⁵⁾。しかしこれらの開示しづらい事実を自己質問票によっていかに把握できる

か、どのような方法で補えるか、その社会的妥当性はどうかという方法論上の課題も残されている。

筆者らは、児童虐待は児、養育者、および児と養育者間の相互作用、地域社会という多次元の視点から把握し、複数の介入手段を検討する必要がある事象であることを指摘した⁴³⁾。この視点はとりまなおさず周産期の母子保健における育児困難状況の増悪や虐待発生の予防的介入とケアにおいても必要と思われる。多次元の事象である虐待については、医学領域での疾病スクリーニングの概念と方法をそのまま適用することでは充分とは言えない。介入プログラムの中で、自己質問紙の結果や包括的なリスクアセスメントをどのように統合していくべきか、介入の有効性や妥当性の評価について、同様な尺度や方法を用いた虐待支援プログラム間でのメタアナリシスも含めて今後検討されていく必要があろう。

謝 辞

本論文は平成16年度厚生科学研究費補助金（こども家庭総合研究）「産後うつ病の実態調査ならびに予防的介入のためのスタッフの教育研修活動」（主任研究者九州大学大学院医学研究院生殖病態生理学 中野仁雄；研究協力者 福岡市東区保健福祉センター 鈴宮寛子）の一環として行われた全国実態調査結果に基づいている。全国調査実施責任者の鈴宮寛子先生と、全国38の保健福祉機関スタッフならびに調査に協力頂いた母親に深謝する。

文 献

- 1) Belsky, J : Child Maltreatment: A Developmental-Ecological Analysis. *Psycho - logical Bulletin*, 114 (3) ; 413 - 434, 1993.
- 2) Boyce, PM : Risk factors for postnatal depression: a review and risk factors in Australian populations. *Archives Women's Mental Health*, 6 (Suppl 2) ; s43 - s50, 2003.
- 3) Brockington, IF, Oats J, George S et al., : A screening questionnaire for mother-infant bonding disorders. *Archives of Women's Mental Health*, 3 ;

- 133 - 140, 2001.
- 4) Brockington, IF : 母子間のボンディング形成の障害の診断学的意義. 特集 養育者の愛着スタイルとボンディング障害, 吉田敬子訳, 精神科診断学, 14 (1) ; 7 - 17, 2003.
- 5) Buist, A : Childhood abuse, postpartum depression and parenting difficulties : a literature review of associations. Australian & New Zealand Journal of Psychiatry, 32 (3) ; 370 - 378, 1998.
- 6) Cazdow, SP, Armstrong, KL and Fraser, JA : Stressed parents with infants : reassessing physical abuse risk factors. Child Abuse and Neglect, 23 (9) ; 845 - 853, 1999.
- 7) Cooper, PJ, Murray, L and Stein, A : Psychosocial factors associated with the early termination of breastfeeding. Journal of Psychosomatic Research 37 ; 171 - 176, 1993.
- 8) Essex, MJ, Klein, MH, Miech, R Smider, NA : Timing of initial exposure to maternal major depression and children's mental health symptoms in kindergarten. British Journal of Psychiatry, 179 ; 151 - 159, 2001.
- 9) Field, T : Infants of depressed mothers. Development and Psychopathology, 4 ; 49 - 66, 1992.
- 10) Fraser, JA, Armstrong, KL and Morris, JP et al : Home visiting intervention for vulnerable families with newborns: follow-up results of a randomized controlled trial. Child Abuse & Neglect, 24 (11) ; 1399 - 1429, 2000.
- 11) Hay, DF and Kumar, R : Interpreting the effects of mothers' postnatal depression on children's intelligence: a critique and re-analysis. Child Psychiatry and Human Development, 25 ; 165 - 181, 1995.
- 12) 福本恵 : 【子どもの虐待】 子どもの虐待防止のためのハイリスク要因等実態調査 母子保健調査. 地域保健, 32 (6) ; 60 - 81, 2001.
- 13) 加藤曜子 : 児童虐待リスクアセスメント 第1章 児童虐待をとりまく状況. 5 - 26, 中央法規出版, 東京, 2001.
- 14) Kauffman, J and Zegler, E : The prevention of Child maltreatment: Programing, research and policy in Prevention of Child Maltreatment. Willis D, Holden EW and Rosenberg M eds. Wiley Interscience, 269 - 295, 1992.
- 15) 木下薫子 : 【児童・青年期の心の支援を考える】 虐待予防の視点で実施した1歳6カ月児健康診査未受診者への訪問相談. 保健の科学, 43 (12) ; 945 - 948, 2001.
- 16) 小林登 : 特集 児童虐待防止法見直しに向けて 児童虐待全国実態調査 (平成13年度構成科学研究費補助金 [子ども家庭総合研究事業] 児童虐待および対策の実態把握に関する研究 総括研究報告書. 子どもの虐待とネグレクト, 4 (2) ; 276 - 302, 2002.
- 17) Kumar, RC : "Anybody's child" : severe disorders of mother-to-infant bonding. British Journal of Psychiatry 171; 175 - 181, 1997.
- 18) MacMillan, HL, Macmillan JH, Offord, DR, Griffith, L and Macmillan, A : Primary, prevention of child abuse and neglect : A critical review. Part 1. Journal of Child Psychology and Psychiatry, 35 ; 835 - 856, 1994.
- 19) Margison, F : The pathology of mother-child relationship In Motherhood and Mental Illness (eds IF Brockington & R Kumar), 191 - 222, Academic Press, London, 1992.
- 20) Martins, C and Gaffan, EA : Effects of early maternal depression on patterns of infant mother attachment: a meta-analytic investigation. Journal of Child Psychology and Psychiatry, 41 ; 737 - 746, 2000.
- 21) 松井一郎, 谷村雅子: 虐待予防の地域中核機関として保健所は機能しうるか. 小児保健研究, 59 (3) ; 445 - 450, 2000.
- 22) 松井一郎, 谷村雅子 : 【虐待をめぐる】 児童虐待と発生予防. 母子保健情報, 42 ; 59 - 68, 2000.
- 23) Milner, JS : Assessing physical abuse risk: The child abuse potential inventory. Child Psychology Review, 14 ; 547 - 583, 1994.
- 24) Murray, L, Cooper, P and Hipwell, A : Mental health of parents caring for infants. Archives of Women's Mental Health, 6 [Suppl. 2] ; s71 - 77, 2003.
- 25) 中板育美 : 全国の事例や活動に学ぶ 子どもの虐待予防活動の展開 虐待予防システムの開発とトライアル. 公衆衛生, 66 (7) ; 531 - 533, 2002.
- 26) 中板育美, 佐藤拓代, 藤井東治, 岡喬子, 吉川敬子, 三上邦彦, 坂本正子 : リスクアセスメント指標の取り組みとその課題. 子どもの虐待とネグレクト, 5 (1) ; 31 - 36, 2003.
- 27) 岡野禎治, 村田真理子, 増地総子他 : 日本版エジンバラ産後うつ病自己評価票 (EPDS) の信頼性と妥当性. 精神科診断学, 7 (4) ; 525 - 533, 1996.
- 28) Olds, DL, Eckenrode, J, Henderson, CR et al., : Long-term effects of home visitation on maternal

- life course and child abuse and neglect. Journal of American Medical Association, 278 ; 637 - 643, 1997.
- 29) 斎藤学 : 全国養護施設に入所してきた被虐待児とその親に関する研究. 子どもの虐待とネグレクト, 3 (2) ; 332 - 360, 2001.
- 30) Seeley, S, Murray, L and Cooper, PJ : The detection and treatment of postnatal depression by health visitors. Health Visitor, 64 ; 135 - 138, 1996.
- 31) Sinclair, D and Murray, L : The effects of postnatal depression on children's adjustment to school: teachers reports. British Journal of Psychiatry, 172 ; 58 - 63, 1998.
- 32) 佐藤拓代 : 子ども虐待予防のための保健師活動マニュアル ～子どもに関わるすべての活動を虐待予防の視点に～ <マニュアル版> 平成13年度厚生科学研究補助金「子ども家庭総合研究事業」地域保健における子ども虐待の予防・早期発見・援助に関わる研究報告書, 2002.
- 33) 鈴宮寛子, 山下洋, 吉田敬子 : 出産後の母親にみられる抑うつ感情とボンディング障害 自己質問紙を活用した周産期精神保健における支援方法の検討. 精神科診断学, 14 (1) ; 49 - 57, 2003.
- 34) 鈴宮寛子 : 産後うつ病の早期発見と虐待予防活動, 新生児訪問指導におけるEPDS (エジンバラ産後うつ病質問票) の実施. チャイルドヘルス, 4 ; 60 - 62, 2001.
- 35) 鈴宮寛子 : 産後うつ病質問紙票を用いた母子訪問指導で早期援助. 公衆衛生情報, 32 ; 46 - 47, 2002.
- 36) 高橋ゆきえ, 川田貴久江, 河村代志也 : 母親のメンタルヘルスチェックの試み (報告1) 産後うつ病 (EPDS) と子ども虐待の可能性 (CAPI) の関連. 神奈川県公衆衛生学会誌, 49号 ; 2, 2003.
- 37) 谷村雅子 : 我が国の子どもへの虐待の実態. 教育と医学, 49 (4) ; 276 - 282, 2001.
- 38) 徳永雅子 : 【子ども虐待の発生予防戦略】母子保健事業における虐待予防施策への提言 新生児訪問を中心に. 地域保健, 33 (11) ; 54 - 61, 2002.
- 39) Yamashita, H, Yoshida, K, Nakano, H, Tashiro, N : Postnatal depression in Japanese women Detecting the early onset of postnatal depression by closely monitoring the postnatal mood. Journal of Affective Disorders, 58 ; 145 - 154, 2000.
- 40) 柳川敏彦, 北野尚美, 小池通夫ほか : 虐待予防の連携のあり方と援助方法 病院—保健所連携の構築. 子どもの虐待とネグレクト, 4 (1) ; 162-169, 2002.
- 41) 山下洋 : 産後うつ病とボンディング障害の関連. 精神科診断学, 53 ; 41 - 48, 2003.
- 42) 吉田敬子, 山下洋 : 児童精神科の広がり—周産期精神医学の立場から—. 精神医学, 141 (12) ; 1317 - 1323, 1999.
- 43) 吉田敬子, 武井庸郎, 山下洋 : <概説>精神医学領域における児童虐待に関する多元的評価の意義—被虐待児とその養育者への適切な心理社会的介入のために—. 児童青年精神医学とその近接領域, 43 (5) ; 498 - 525, 2002.

Abstract

**INVESTIGATION OF COMMUNITY-BASED PREVENTIVE INTERVENTION
USING QUESTIONNAIRES FOR MOTHERS AT RISK FOR CHILD ABUSE:
CONTRIBUTION OF PERINATAL PSYCHIATRY TO CHILD ABUSE IN INFANCY**

Hiroshi Yamashita, Keiko Yoshida

Department of Neuropsychiatry, Kyushu University Hospital

Background and aim of the study: In recent years broader approach for community based intervention of child abuse has been urgently needed, especially focused on the preventive intervention in early perinatal period. The authors have set up the screening and assessment program for the postnatal mothers at risk of having depression and related difficulties in baby care. Using the Edinburgh Postnatal Depression Scale (EPDS, Okano for the Japanese use, 1996), together with two other self-report questionnaires, which are "Mother's feeling toward the baby" (the bonding questionnaire, Marks et al, unpublished) and the list of related factors to child-rearing difficulty, community health visitors and midwives working for the health centers in our city (Fukuoka) visited the postnatal mothers to offer them comprehensive mental support. Most mothers (94.6%) fulfilled the EPDS and other questionnaires. The purpose of this study is to test whether our mental support program for mothers with postnatal depression and its related problems in infant care is also useful for preventive intervention for mothers at risk of child abuse in infancy.

Methods: National survey using the same program was carried out supported by the grant from The Ministry of Health, Welfare and Labour in Japanese government.

Results: Thirty eight community health centers participated in this survey, and 3370 mothers completed the questionnaires at the first home visit within four months postnatally. Of those mothers, 13.9% were identified as having postnatal depression (EPDS score ≥ 9). The additional question which implied more direct possible risk of child abuse was also addressed to those mothers. The question was "Have you ever had the idea of hitting your baby?". The mothers who have this idea had also negative feeling towards their babies; which was shown in higher scores of bonding questionnaires rather than the EPDS scores. A stepwise multiple regression analysis showed that various bonding problems as well as postnatal depression itself contributed to this possible abuse.

Conclusion: The comprehensive and multidimensional screening and assessment program introduced here is useful and could be more elaborated with further research on effectiveness of this program.